

確認問題

● 次の問いに答えなさい。.....

20問

① 産業革命と19世紀のヨーロッパ

- (1) イギリス人技師のワットが改良した、石炭を燃料とする機械の動力を何というか。(1) _____
- (2) 製鉄や機械などの産業が急速に発達し、工場で生産した商品を世界中に輸出したイギリスは、何と呼ばれるようになったか。(2) _____
- (3) 機械生産などの技術の向上によって、経済と社会の仕組みが大きく変わったことを何というか。(3) _____
- (4) (3)によって、生産の元手になる資本を持つ者が、働く者をやとう仕組みが生まれた。この仕組みを何というか。(4) _____
- (5) (4)の広がり都市にあふれた労働者が、職業と生活を守るために結成した団体は何か。(5) _____
- (6) (4)の仕組みを批判してマルクスなどが説いた、生産手段を私有せず、^{おおや}公の社会のものとする考えを何というか。(6) _____
- (7) 首都ロンドンが世界最大の都市になり、世界初の万国博覧会が開かれた国はどこか。(7) _____
- (8) 1871年、プロイセン王を中心に、ビスマルク首相の下で統一帝国になった国はどこか。(8) _____

② ロシアとアメリカの発展

- (9) ロシアが採った、^{こっかい}黒海や^{ちゆうかい}地中海の沿岸、中央アジア、中国東北部に進出しようとする政策を何というか。(9) _____
- (10) アメリカで、保護貿易と奴隷制をめぐり、北部の州と南部の州が対立して始まった戦争を何というか。(10) _____
- (11) イギリスが清から大量に輸入した農産物は何か。(11) _____

③ ヨーロッパのアジア侵略

- (12) イギリスが、インドと中国の間で行った貿易を何というか。(12) _____
- (13) 1840年、イギリスが清に^{ぐんかん}軍艦を送って始まった戦争を何というか。(13) _____
- (14) ①(13)の結果、1842年に清とイギリスとの間に結ばれた条約を何というか。(14) ① _____
- ②この条約でイギリスが得た領土はどこか。(14) ② _____
- (15) イギリスが清に認めさせた、イギリス人が事件を起こした場合、清ではなく、イギリスの領事が裁判を行う権利を何というか。(15) _____
- (16) 清に認められなかった、自国に輸出入される商品にかかる関税を独自に決められる権利を何というか。(16) _____
- (17) 清が戦費や賠償金をまかなうために農民に重税を課したことなどを理由にして起こった、洪秀全を中心とする反乱を何というか。(17) _____
- (18) イギリスが、機械で生産した安価な製品を大量に輸出したことにより、インドの産業に打撃をあたえた工業製品は何か。(18) _____
- (19) 1857年、インド兵のイギリス人上官に対する反乱をきっかけに、インド各地に広まった反乱を何というか。(19) _____

20 欧米の進出と日本の開国②

① 産業革命と19世紀のヨーロッパ

1 産業革命 17世紀以降ヨーロッパでは、インド産の綿織物が人気商品。18世紀後半のイギリスで、蒸気機関で動く機械によって、安い綿織物の大量生産が始まる。製鉄、機械、鉄道、造船、武器などの産業が発達して、「世界の工場」と呼ばれる。イギリスは世界に先がけて、機械生産などの技術の向上で経済と社会の仕組みが大きく変わる産業革命を達成する。

2 資本主義と社会主義

- (1) **資本主義** 産業革命により、資本を持つ資本家が、労働者をやとい、利益を目的に自由競争の下で生産・販売する資本主義の仕組みが成立。社会問題が発生し、労働者は職業と生活を守るために労働組合を結成。
- (2) **社会主義** 資本主義を批判する社会主義の考えをマルクスが説く。

3 19世紀のイギリスとドイツ

- (1) **イギリス** 初めて万国博覧会を開き、植民地を拡大するなど繁栄の時代をむかえる。二大政党制が成立し、労働者にも選挙権を認める。
- (2) **ドイツ** 鉄血宰相ビスマルクが富国強兵を進め、プロイセン王を中心にドイツ帝国が成立する。

② ロシアとアメリカの発展

1 ロシアの拡大 17世紀以降、急速に領土を拡大。19世紀には南下政策を採る。皇帝の専制政治が続く中、工業が急速に発展。

2 アメリカ合衆国の成長 独立後、移民が増え、農業と工業が発展。

- (1) **領土の拡大** 太平洋岸まで領土を広げ、日本にも使節を送る。
- (2) **南北戦争** 自由貿易や奴隷制をめぐる、北部と南部が対立する。1861年に南北戦争が起こり、リンカン大統領が率いる北部が勝利する。

③ ヨーロッパのアジア侵略

1 ヨーロッパとアジアの力関係 産業革命が進展したヨーロッパの国は、工業製品の輸出先や原料の供給地にするため、軍力でアジアに進出。

2 アヘン戦争と中国の半植民地化

- (1) **アヘン戦争** 清が貿易港を廣州のみに制限していたことなどから、イギリスは清との貿易が赤字になる。インド産アヘンを清に持ちこみ、清から茶を買う三角貿易を行う。1840年にアヘン戦争が起こり、イギリスが勝利して南京条約が結ばれる。イギリスは、清に上海など5港を開かせ、香港と賠償金を得る。翌年、清に不平等な条約を結ぶ。
- (2) **太平天国の乱** 清では、戦費と賠償金をまかなおうと農民に重税を課したため、洪秀全を中心に太平天国の乱が広がる。

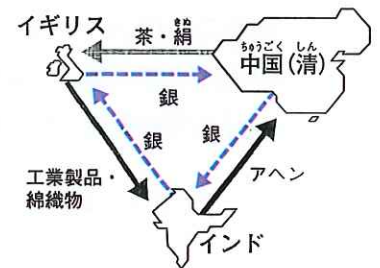
3 インドの植民地化 イギリスの安い綿織物が流入し、インドの綿織物業が大きな打撃を受ける。1857年にインド大反乱をしずめたイギリスは、インドを直接支配する。

▼南北戦争での北部と南部の対立

	北部	南部
経済	工業が発展	大農場
中心勢力	資本家	大農場主
貿易	保護貿易	自由貿易
奴隷制	反対	賛成

リンカン大統領は、南北戦争中に奴隷解放宣言を出した。また、ゲティスバーグでは「人民の、人民による、人民のための政治」という演説を行った。

▼イギリスの三角貿易

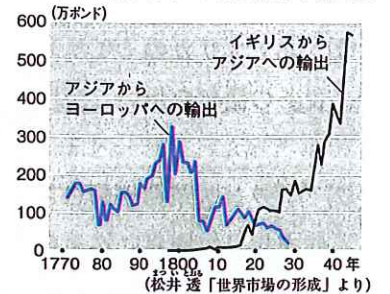


アヘンはけしの実から作られる麻薬で、中国では社会問題となり、清は厳しくこれを取り締まった。

▼南京条約

- 香港島をイギリスにゆすりわたすこと。
- 賠償金として2100万ドルをイギリスに支払うこと。
- 廣州、福州、廈門、寧波、上海の5港を開港すること。
- 公行を廃止し、自由な貿易を行うこと。

▼アジアとイギリスの綿織物の輸出入額



イギリスは機械で大量に生産した綿織物をインドに輸出した。